

# 音楽の散歩道

小川 弘子

さる7月10日に、ロサンゼルスが世界に誇るウォルト・ディズニー・コンサートホールで、「BRIDGING USA & JAPAN」と題するコンサートが催されました。その第二部で、日本人、日系人が中心の約380人からなる合唱団がアジアアメリカシンフォニーと共に、ベートーヴェンの交響曲第九番、いわゆる「第九(だいく)」を高らかに歌いあげました。

長であった鈴木康義さんの燃えるような情熱で、実現へと一歩、また一歩と確実に歩んできたのです。オレンジカウンティ、LAダウンタウン、サウスベイの3カ所に分かれて練習が始まったのは、昨年の11月下旬。本番まで8カ月もなく、日本国内と違つて「第九」経験者は少なく、最初は本番に間に合うのかという気持ちを持った人もいたと思います。私も指導者の一人として、暗中模索という状態でした。楽譜を見るのは中学校の音楽の授業以来だという人、歌なんてカラオケすら歌ったことのないという人、奥さんまたはご主人に強引に誘われて来ただけという人。その上に、ドイツ語です。大多数の全く初めての人にとつて、呪文のようなもの

このコンサートの案を最初に耳にしたのは、もう1年半くらい前のことだったでしょうか。「ディズニーホールで第九を」なんて、まるで夢のような話で、どこまで実現可能なのか、話半分聞いていたものです。それが、JBA(南カリフォルニア日系企業協会)の当時の会



おがわ・ひろこ 神戸大学教育学部音楽科卒、同大学院修士課程修了。専門はピアノ。97年に渡米。現在、パイオラ大学音楽学部伴奏者。その他、バレエ伴奏者、合唱団指導および伴奏者などとして活動。

## 感動の「第九」

だったことでしょう。そんな、楽譜が読めない、ドイツ語も読めない、という人たちが、8カ月で「第九」を歌おうというのですから、いかに大変か、想像に難くないと思います。やっと少しずつ希望の光が見え始めたのは3月くらいだったでしょうか。「これなら、本番までに間に合う」とうれしくなったのを覚えていきます。

そして、ディズニーホールでの本番。私は、客席のど真ん中から、祈るような気持ちで4楽章の合唱の歌い出しを待っていました。どこかで誰かが大きく

間違えないか、途中で指揮と合唱がずれてしまわないか、オーケストラの迫力に負けてしまわないか、あれもこれも心配なことばかり。しかし、合唱が進んでいくにつれ、その心配は興奮へ、確信へと変わり、最後の一言が鳴り響きマエストロ、デヴィッド・ベノア氏の指揮棒が止まった途端、「ブラボー！」と叫んで立ち上がったしまいました。これまで数え切れないくらいコンサートやオペラを聴いてきたのに、こんなことは初めてでした。あの大変な練習を共に積み重ねた者どうしのみが分かち合える達成感が、そうさせたのでしょう。

380人の合唱団員の皆さん、すばらしい演奏、おめでと。大成功でしたね。そして感動をありがとう。これで終わりではありません。これからも音楽を通じて、合唱を通じての仲間であり続けるための、出発点なのです。今回の「第九」をきっかけに、人の輪、音楽の輪が広がり続けることを願っています。